

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	良く なっている	観光名所（従業員）	来客数の動き	・26日現在、4月の利用乗降客数は前年比129%と約30%増加している。こうした前年を上回る傾向は、今年に入ってから継続的に続いている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・春の訪れが早く、天候が安定しているなかで、気温の高い日が続いていることで、客の来街頻度が高まっており、久しぶりに衣料品関連の売上がわずかながらも増えている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・4月中旬以降、道内外からの観光客が増加している。多くは団体客であり、旅行会社などが誘導する店舗の買物袋を携行する姿が多くみられた。また、例年以上に気温が上昇していることで、地域住民の来街者も増加しており、男性衣料品などの一部の店舗を除き、売上がアップしている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・今年は雪解けが早かったことに加えて、気候も安定していることから、消費面でプラスに働いている。前年の消費税増税後の反動もあり、前年比も上向いている。また、旧正月後も外国人観光客が順調に来道しており、好調に推移している。外国人観光客を狙った新規出店も増えている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・外国人客による売上が前年比240%、国内客による売上が前年比110%近くとなり、2014年の消費税増税後の落ち込みから回復している。来客数が若干減少しているが、ハンドバッグや装身具などのファッションアイテムの動きが前年比150%を上回るなど、客の購買意欲が感じられる。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・一部の高額商材において、購買意欲が高まっている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・気温の上昇とともに、アウターや靴などの春物アイテムの動きが活発になり、売上が押し上げている。ゴールデンウィークを間近に控えて、客の購買意欲が高まってきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前年の消費税増税後の反動もあり、4月は販売量も売上も前年を上回っている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・競争環境の激化により来客数は前年を下回っているものの、商品単価、客単価とも上昇傾向にある。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・2014年4月は消費税増税前の駆け込み需要の反動で売上、来客数が落ち込んだ月であるため、売上、来客数とも前年を上回っている。ただ、2013年との比較ではそれほど大きな増加はみられない。一方、商品単価は前年から約7%上昇しているが、客1人当たりの平均買上点数がやや落ち込んだことから、客単価は前年から約3%の上昇となっている。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・価格の安い商材だけでなく、こだわり商材や地場産品など、やや価格の高い商材も売れるようになってきた。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・祝祭日や好天の日の来客数が増加傾向であり、行楽時の支出を増やす傾向がみられるようになってきた。その反面、悪天候時の祝祭日は来客数が大きく減少するなど、厳しい状況にあり、消費のメリハリがうかがえる。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要から一巡したこともあり、4月の売上は前年から回復してきている。後半に入ってから、売上だけでなく、来客数も回復傾向にある。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・4月は前年と比べて気温が高いこと、統一地方選挙の効果で酒などの免許品が動いていること、高速道路のインターチェンジが開通したことから、売上がやや増加している。ただ、前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動でたばこの売上が相変わらず減少したままであり、影響が大きい。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・客の購買動向をみると、買う商材の数が増えている。
	コンビニ（店長）	来客数の動き	・4月は売上が前年比103%、来客数が前年比102%、客単価が前年比101%となっている。前年は消費税増税直後で、客の買い控えがみられた分、今年の売上が増加している。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量が増えてきており、前年を上回っている。	

	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・雪解けが順調に進んでいることから、農業系団体の需要が堅調である。また、宗教関係団体にも大型案件の動きがみられるなど、団体需要が全体をけん引している。一方、統一地方選挙の影響はあまりみられなかった。
	美容室（経営者）	お客様の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月間連続で売上が前年を上回っている。客の来店周期が以前よりも短くなってきたのが大きな要因となっている。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・日経平均株価が2万円を超えたこともあり、客のムードが非常に良くなっている。ただ、住宅投資に消費がまだ回ってきていないため、より一層の株高が必要である。
	住宅販売会社（役員）	単価の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・分譲マンションの販売価格を値上げしたにもかかわらず、客の反応は悪くない。販売速度も以前と変わりなく、売行きは順調である。
変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・前年の4月は消費税増税の反動で最悪の状況であったが、今年は売上が戻ってきている。ただ、前々年までの水準には至っていない。
	商店街（代表者）	お客様の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・客の傾向は過去と変わらないものの、気持ちの面では上向きになっている。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・天候が不順だったことに加えて、統一地方選挙の影響もあり、人出が極端に悪かった。ただ、中国人を始めとした外国人観光客の入込が好調だったことに助けられ、売上は前年比105%と前年を上回った。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・4月は統一地方選挙があったため、選対事務所の関係者など、そこに携わっている人達が外出、外食、飲食を手控えていることで、夜の客の出が少なかった。まだ選挙が終わったばかりであるため、あと1週間程度はその影響が残る。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・前年4月の消費税増税から1年が過ぎたが、物産展などの催事への来客数、買上客数が減ったままであり、イベント関連の売上が前年の80%台と厳しい状況にある。一方、春物の売上は、天候が春らしくなるとともにジャケット、コートに動きが出ており、前年を上回った。
	スーパー（店長）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税増税から1年が経過したが、来客数、販売量、客単価のいずれも増税前の水準に戻っていない。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・統一地方選挙があったことで催事の来客数が減った。また、消費者が郊外の大型店に流れており、地元商店街の消費者の動きが著しく衰退してきている。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・気温低下の影響がみられた。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・軽自動車税が4月から上がったあおりを受けて、販売量が伸び悩んだ。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・例年と比べて、数字上、大きな変化がみられない。
	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・新車、中古車ともに受注量が上向いてこない。消費者のマインドに変化がない限り、現状のままで推移する。
	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・車検入庫は前年並みの水準を維持している。消耗品の夏タイヤは前年の1.5倍の売上がみられるが、3月と4月の累計では前年並みで終わりそうである。洗車用品も前年並みの売上となっている。来客数も大きく変わっていない状況にある。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客に高齢者が多い商売であるため、年金減額の影響が厳しい。天候が良くなかったことも来客数の減少につながっている。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・石油価格が安定しているため、特に目立った動きはみられない。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・月前半は売上が前年を下回って推移していたが、月後半、特に下旬に入ってから前年を上回る日が多く、最終的には前年を6.7%上回った。桜前線が例年よりも10日以上早かったことの影響とみられるが、それだけとは思えないような来客数の動きであった。

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・気温の上昇とともに売上が増加しており、景気回復と錯覚しそであるが、こうした傾向は毎年のことであり、特に前年は売上を減らしていただけに、判断の付かない状況である。また、来客数は前年並みとなったものの、客単価は前年を下回った。地方で人気のガイドブック掲載店を訪ねたが、いつも混雑しているのに、当日は席がまばらで驚いた。	
	高級レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・全体的に価格によって客の動きが左右される傾向が依然としてみられる。	
	一般レストラン (スタッフ)	単価の動き	・3月にメニューの値上げをしたが、低価格メニューの販売量が伸びるなど、客単価が思うように上がってこない。	
	スナック(経営者)	来客数の動き	・4月は統一地方選挙があったが、思ったほどの落ち込みはみられなかった。いつもどおりの来客数であった。	
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・国内客については、観光、ビジネスともに前年並みで堅調に推移している。ただ、観光目的の団体客、個人客はともに入込の動きが鈍く、横ばいでの推移となっている。	
	観光型ホテル (役員)	単価の動き	・引き続き宿泊単価が上昇傾向にあり、好調を維持している。	
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・平日の午後や週末は一定の来客があるものの、平日午前の来客が少なく、カウンターが終日埋まっているという状況がなかなかみられない。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・4月前半は統一地方選挙があり、夜の人出も少なかったが、選挙終了後はタクシーの売上が前年並みに戻ってきた。3月まで売上が前年を下回っており、4月に入っても天気が良かったため、タクシーの利用が少なくなることを心配していたが、結果的に前年並みの売上となった。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・下落傾向に歯止めがかからず、4月の売上は前年を大幅に下回った。また、景気の悪い業界として薄給が知れ渡り、人材確保ができない状況にある。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・前年比で見ると、売上は若干のマイナスだが、水準としてはほぼ前年並みの水準であった。気温が高く推移していることで、良くなる要因と悪くなる要因があったが、結果的に差引きゼロで変化がなかった。	
やや悪くなっている	衣料品専門店 (店員)	来客数の動き	・来客数が少ない上、客単価も低い状況にある。	
	家電量販店(店員)	来客数の動き	・統一地方選挙の影響のせいか、来客数が伸びなかった。客単価も落ちたままである。	
	スナック(経営者)	来客数の動き	・統一地方選挙のせいなのか、入出が少なかった。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・4月は暖かい日が続いたせいか、タクシーよりもバスや電車を利用する人が多かった。売上も3か月前と比べて約11%も落ち込んでいる。例年、この時期は売上が落ち込む傾向にあるが、前年と比較しても2%ダウンしているため、やや悪くなっている。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・統一地方選挙があったため、顧客の外出機会が減少している。	
	その他サービスの動向を把握できる者[フェリー](従業員)	来客数の動き	・例年と比較して、特にツアー客が減少しており、旅客、車両ともに輸送量への影響がみられた。	
悪くなっている	百貨店(販売促進担当)	競争相手の様子	・大型競合商業施設の新規出店の影響もあり、消費税増税の影響のない2013年との比較においても各種数値が悪化している。消費市場の拡大が見込めない地方においては、限られたパイの食い合いとなっている。	
企業動向関連 (北海道)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	建設業(従業員)	取引先の様子	・外国人観光客の急増などにより、ホテルの稼働率が高まっていることで、建築工事費の高騰を考慮しても事業の採算性が図れるとの判断で、ホテル業界からの改修や増築の引き合いが増えている。
		通信業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・若干ではあるが、販売価格が上昇傾向を示しているとともに、販売量も堅調に推移している。

	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前年10月から建設需要が下降していたが、ゼロ国債の発注、執行により、4月始めから需要が戻ってきた。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・3月まで売上が前年割れの状態で推移していたが、4月は前年を上回る売上となっている。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・機械設備の納入が重なり、売上が好調だった。
変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・販売量について、季節変動分を除くと3か月前と変わらない状況にある。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・請負物件が比較的好調にしているものの、百貨店などへの卸売が低調であった。
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事の発注量が伸びないなか、受注量確保に若干の不安はあるものの、民間受注が比較的好調に推移している。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・例年と比べて、全国的に好天に恵まれているため、飲料製品の荷動きが順調になってきている。それにあわせて、空き缶やペットボトルなどの容器、資材の動きも良くなっている。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・3か月前は冬場で一般的に荷動きの鈍くなる時期であるため、雪解けにともない荷動きが活発になることを期待していたが、今のところ状況は変わっていない。
	金融業（企画担当）	それ以外	・建設業は公共工事に一服感が強い。個人消費は行楽シーズンを前にガソリン価格が下落していることが追い風となっているが、身近な食料品や日用品が値上がりしていることで、消費者の節約志向が強い。観光関連は天候に恵まれ、雪解けが早かったことに加えて、外国人観光客の大幅な増加により堅調である。
	司法書士	取引先の様子	・地方都市特有の問題であるが、景気の先行きがはっきりとしないことに加えて、高齢化社会の進展もあり、景気が停滞気味である。
	司法書士	取引先の様子	・例年と比べて、春先の建物の新築、土地の売買が少ない状況にある。
	司法書士	取引先の様子	・依然として不動産取引が低迷している。景気回復に対する政府の熱意も感じられない。首相の米国訪問を控えて、安全保障だけがクローズアップされている状況では、市場の活性化は期待できない。
	コピーサービス業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・取引している客の動向が慎重になってきている。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・依然としてユーザーの設備投資意欲が上向いてこない。また、今年度の公共事業の予算が減額するとみられることから、当地区の基幹産業である建設業への影響も大きい。
	やや悪くなっている		
	悪くなっている	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている		
(北海道)	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・求人件数が増加傾向にある。ただ、新規求人の依頼が横ばい傾向になっている。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・求人の応募数が若干増えてきている。時期的に新規就業者が加わったという要因もあるが、条件の良いところへの転職者も増えている。求人件数は業種によりばらつきがあるが、全体としては増えてきている。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・1月から3月にかけての有効求職者数が前年に比べて減少している。一方、有効求人倍率は上昇してきている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の増加傾向が続いている。新規求人数は前年を0.6%上回り、16か月連続で前年を上回っている。月間有効求人数は前年を5.9%上回り、25か月連続で前年を上回っている。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・各企業とも、採用のボーダーラインを下げているわけではないが、一定基準を上回る学生が多ければ、当初の予定人数より多めに採用したいとの意向が出ている。

変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・求人数が増加傾向にある。一方、当社における登録者数は3か月前と変化がないことから、当社に登録する前の求人誌などでの就職が増えているとみられる。これらのことから、景気が緩やかに回復し、企業の採用枠が増えているとみられる。また、現在、行政からの就職支援業務として、企業に若年者をインターシップとして送り込み、就職に結びつける事業を受託しているが、受入先企業の要望が数多く寄せられている。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・求人誌の取扱件数に変わりが見られない。
	職業安定所(職員) 職業安定所(職員)	雇用形態の様子 求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・正社員求人が4割を下回っており、求職者の安定した生活を支えるには不十分な状態である。 ・月間有効求人数は62か月連続で前年を上回り、月間有効求職者は41か月連続で前年を下回った。
やや悪く なっている	新聞社[求人 広告](担当者)	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・募集広告の売上が前年比でマイナス14%と大きく落ち込んだ。上位構成業種のうち、トップの医療関係は前年から30%程度増加したものの、派遣、小売、不動産、環境衛生、飲食運輸が軒並みダウンし、全体を大きく押し下げた。
悪く なっている	-	-	-